

植物多様性センターの「モズのはやにえ」

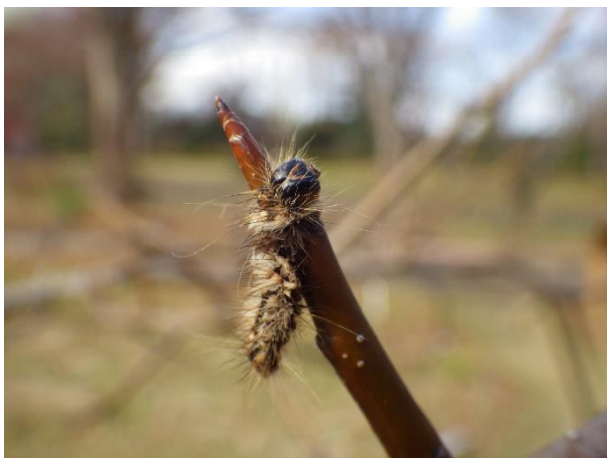
秋から冬にかけて、モズの高鳴きを耳にしたら、近くの雑木林や公園などを探してみてください。「モズのはやにえ」が見つかるかもしれません。獲った餌をすぐには食べずに、一時的に木の枝などに刺して保存することをはやにえと呼びます。はやにえはちょっと残酷にも見えますが、その土地の生き物の豊かさを物語る指標でもあります。これまでセンターで観察された、はやにえのいくつかをご紹介します。



マメザクラの細い枝に刺さっていたニホンカナヘビ



ナシのトゲ状短枝に、アカスジキンカメムシの終齢幼虫



ナシの短枝に、ガの1種、ナシケンモンの幼虫



ミツバウツギの枝に、キリギリスの仲間のクビキリギス